## エース水文学(朝倉書店)

## 初版第1刷(2006年2月25日)から初版第2刷(2006年12月15日)への変更点 2007/06/09

以下、ページ数は初版第1刷のページ数を示す。

2ページ10行目

すべての歴史を包括する → 一切を体系的に記述する

5ページ図 1.5 の微修正

7ページ下 11 行目

 $14 \rightarrow 14.6$ 

7ページ下2行目

 $280 \rightarrow 300$ 

8ページ11行目

 $14 \rightarrow 14.6$ 

8ページ13行目

 $4,000 \rightarrow 3,000$ 

8ページ13行目

 $400 \rightarrow 550$ 

8ページ14行目

 $10 \rightarrow 11$ 

10ページ 2.4.1

プランクの法則、シュテファン・ボルツマンの法則の式を追加し、記述を多少修正した。

16ページ図 2.9 の微修正

16ページ 2.5.2

記述を多少修正した。

18ページ図 2.12 の微修正

21ページ 3章全般 文章の微修正。

26ページ 3.4.1

熱力学の第一法則を追加し、文章を修正した。

27ページ図 3.3, 3.4 の微修正

30ページ図 3.5 の修正

35ページ図 3.7 の微修正

39ページ式(3.2.1)(3.2.3)の修正

41ページ図 3.10 に付された参考文献番号

 $7) \rightarrow 9$ 

43ページ9行目

約半分 → 1/3 から 1/2

45ページ下2行目

 $T_s$ は  $\rightarrow$   $T_s$ および ε は

48ページ3行目の式の2つ目の等号の後の式中 -- --

 $uw \rightarrow uv$ 

52 ページ 7 行目節タイトル、52 ページ図 4.7、12 行目 15 行目、54 ページ 3 行目、55 ページ 15 行目

蒸発散量 → 水蒸気輸送量

55ページ下7行目

水平風速 → 水平平均風速

56ページ下4行目

蒸発量 → 蒸発散量

59ページ6行目式(4.37)の右辺

$$\frac{C_p}{\gamma\lambda}e \rightarrow \frac{C_p}{\gamma\lambda}\frac{p_0}{p}e$$

59ページ7行目

pは大気圧  $\rightarrow$  pは大気圧,  $p_0$ =1013.25hPa

59ページ9行目の式中

$$p \rightarrow p_0$$

59ページ 11 行目の式の右辺

$$\gamma \frac{d\overline{T}}{d\overline{e}} \rightarrow \gamma \frac{p_0}{p} \frac{d\overline{T}}{d\overline{e}}$$

59ページ 11 行目の式の右辺

$$\gamma \frac{T_2 - T_1}{e_2 - e_1} \quad \rightarrow \quad \gamma \frac{p_0}{p} \frac{T_2 - T_1}{e_2 - e_1}$$

65ページ図 4.11

一点鎖線が G、破線が H。

65ページ図 4.13、4.1.4

点線が G、一点鎖線が λE、破線が H。

69ページ図 5.3 縦軸の単位

 $cm \, \to \, mm$ 

71ページ 5.4

記述を修正

76ページ 図 5.10 の微修正

74 から 79 ページ 5.6

記述を修正し、参考文献を追加した。

88ページ図 6.7 の微修正

95ページ式(7.1)

$$\frac{\partial Q}{\partial t} \rightarrow \frac{\partial Q}{\partial x}$$

96ページ 5 行目

 $rough\text{-}ness \ \rightarrow \ roughness$ 

97ページ2行目

・・・に適用すると  $\rightarrow$  ・・・に適用すると、斜面幅を B として A=Bh であり、 $R \leftrightarrows h$  として よいため

97ページ6行目

々は流量 → 々は単位幅流量

97ページ下2行目

撹乱は → 水深 h の撹乱は

98ページ図 7.4

原点 $O_0$  (オー)  $\rightarrow 0$  (ゼロ)

98ページ13】行目

方程式(7.15)→ 方程式(7.15)(7.16)

99ページ4行目

伝播速度 → 伝播速度 dx/dt

102ページ図 7.6 の微修正

 $V_S \rightarrow v_s, V_A \rightarrow v_A$ 

105ページ4行目

 $L \rightarrow L_0$ 

105ページ 11 行目 式(7.44)

 $B(L, y) \rightarrow B(Ly)$ 

105ページ12行目 式(7.45)

 $w(x, t) \rightarrow w(y, t)$ 

105ページ13行目 式(7.46)

 $s(x, t) \rightarrow s(y, t)$ 

113ページ2行目 左側の式右辺

 $R_s^{k-u} \rightarrow R_s^{1-u}$ 

113ページ3行目

ここで → ここで接続する同じ位数の河道区分を一つの河道区間として

113ページ3行目

河道区分 → 河道区間

113ページ4行目

最下流の河道区分の位数 → 最大位数

118 ページ図 8.7 の微修正。×(乗算)を X (エックス) にする。

$$K \times (I-Q) \rightarrow KX(I-Q)$$

119ページ下7行目 式(8.14)を以下にする。

$$\frac{\partial Q}{\partial t} + \frac{\partial}{\partial x} \left( \frac{Q^2}{A} \right) + gA \left( \frac{\partial h}{\partial x} - i_0 + I_f \right) = 0$$

122 ページ 8.2.5

記述の微修正と参考文献の追加。

126ページ 16 行目

汚染物質 → 物質

130ページ図 9.6, 9.7

図の差し替え。足羽川流域を円山川流域に変更。

134 ページ 9.4

参考文献の追加。

149ページ 10.2.3, 10.2.4

式の表現形式を変更。H(k)などを $H_k$ とした。

156ページ 10.3.3

参考文献を追加。

159ページ 11 章全般

文章の修正箇所多数。

164ページ下7行目

一般に  $\rightarrow$  実現値  $\mathbf{x}_i$  の確からしさは  $\mathbf{x}_i$ における確率密度関数の値に比例すると考えてよいので、N 個の独立な事象  $\mathbf{x}_I$ ,  $\mathbf{x}_2$ , ...,  $\mathbf{x}_N$  が実現する確からしさは式(11.6)で表すことができる。

166ページ下3行目

 $s \rightarrow s_{0.99}$ 

170ページ5行目、14行目

 $\log \rightarrow \ln$ 

171ページ4行目

 $X \rightarrow X_p$ 

171ページ8行目 式(11.18)の上の式

 $1/2 \rightarrow 1/k$ 

171ページ下6行目 式(11.19)の下の式

 $\beta \pi \rightarrow \beta x$ 

172ページ4行目 式(11.21)

 $\rho \rightarrow 1/a$ 

174ページ17行目 式(11.25)

 $s_i *= g(y_i) = g(F^1(p_i))$ 

174ページ 19 行目

・・・である。  $\rightarrow$  ・・・である。また。Gは変量yを標準変量sに変換する関数である。

174ページ9行目

 $criteion \rightarrow criterion$ 

177ページ8行目

 $s_T \rightarrow s_p$ 

178 ページ

式(11.34)  $\tilde{\phi}_{\scriptscriptstyle J}$   $\rightarrow$   $\hat{\phi}_{\scriptscriptstyle J}$ 、 $\tilde{\phi}$   $\rightarrow$   $\hat{\phi}$ 

式(11.35) 
$$(\hat{\phi}_{(\bullet)} - \hat{\phi}) \rightarrow (\hat{\phi}_{(i)} - \hat{\phi}_{(\bullet)})$$

179 ページ

式(11.37) (11.38) 
$$\phi^{*\bullet}$$
  $\rightarrow$   $\hat{\phi}_{\scriptscriptstyle B}^{\phantom{B}*}$ 

184 ページ

2 行目の式の最初の等号を削除する。